

1000 Signs

おバカなサインを 世界中から1,000集めました!

海外で何げなく見ている標識や看板。でも見返してみると、不条理で脱力系のおバカなものがいっぱい。そんなおバカなサインを集めた本が出ちゃいました。

text: Kouichi Yanagimoto

この本が出たとき、内心「先を越された」と思った。海外に行くたびにその国の日常にあふれているサインともいえないようなものを増やして、その中にこんな標識も多くあった。現地の人たちは真剣に作っていると思うけど脱力系のヘタウマイラストには見えない。標識としてちゃんと機能しているのか疑問なものも結構多いけど、1980年代のリバイバルっぽかったり、ポルケやバチユラーのようなコンテンツリーアートの雰囲気も醸し出して、そんな看板を見るとシャッターを押さずにはいられない衝動にかられてしまう。カラースタシラしくアフリカや中東

東南アジアが目につくのはやはりどうトグラムとして中華半端だからだろう。でも、そこのほうが目立っているというよりは本来の抽象化された標識ってなんなんだろうと、延々と写真だけが細かい解説なしで1000点を出しているだけでもそこそこサインの意味や本質とは何かを考えさせられてしまう。大衆演劇のコメディのような「十分笑わせて、でもちよびり泣かせる」的なものを兼ね備えているのだ。標識の世界基準が生んだ合理化と機能主義。長所であるべき部分に実は「感情」「文化」というものを軽視してしまっただけ所も併せ持っていた。人間やっぱりバカが分かるものでないかね。

1000 SIGNS, (Taschen刊) 4,095円。140×195mm、512ページ。英語・仏語・独語併記版。8月1日発売 (ベネトン ジャパン 03-5674-7089)。

榎本浩市 (グラフィックデザイナー、幼少から日常を取り巻くデザインやアンテナサインを収集し、展覧会や出版などで紹介している。雑誌誌面や「BRUTUS」など連載も多数。秋にはあのプラニエラ航空の展示会も企画中!)



3年間にわたり「COLORS」の現地カメラマンたちが撮影した道路標識を集めた1冊。動物系、ストリップ系、危険系、トイレ系など目的ごとに世界各地のサインがまとめられた500ページを超える大作。グラフィックだけでなく、楽しみめるラフなデザインで活版中(7)の字形も意識する。デザイン度が高い。

